



しらすぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO.28
(通巻97号)
平成28年(2016)
2月15日(月)

『きそくにしたがへ』

校長 飯野 博史

「尋常小學修身書 兒童用 卷三」より

かすがのつぼね
春日局は時の將軍のうばであつた人で大そうせいりよくがございました。あ
る夜おそくしろにかえつて來た時、門
がしまつてゐたので、ともびとがあけ
させようとしましたら、門ばんのやく
にんが「きそくでございますから、上
やくのゆるしがあるまではとほすこと
は出來ません。」といひました。局は「そ
れはもつともなこと。」といつて、さむ
い夜風にふかれながら門のあくまで外
にまつてゐました。

春日局は時の將軍の乳母であつた人で大層勢
力がございました。ある夜遅く城に歸つて來た
時、門が閉まつていたので、供人が開けさせよ
うとしましたら、門番の役人が「規則でござい
ますから、上役の許しがあるまでは通すことは
出來ません。」と言いました。局は「それはも
つともなこと。」と言つて、寒い夜風に吹かれ
ながら門の開くまで外に待つていました。

2月も半ばとなりました。来週25日から期末考査が始まります。学年が終わるまで気を引き締めて生活、学習するよう指導しています。ご協力よろしくお願いいたします。

マンション建設での杭打ちデータ流用、血液製剤やワクチンの不正製造、教科書選定を巡る謝礼問題、廃棄食品の横流し…最近、次から次へとモラルが疑われる問題が起きています。進んで「きまり」を守るはずの企業や大人がこれでは子供たちに示しがつきません。

春日局は將軍徳川家光の乳母で、大層権力がありました。門限を過ぎて城に戻ることにありました。供人は「春日局様であるぞ。ここを早く開けなさい。」とでも言ったのでしょうか。しかし、門番は「規則ですから開けるわけにはいきません。」と断りました。相手の身分がどうであれ、正しいこと、規則を貫こうとする門番の姿に清々しさを感じます。

春日局は「規則に従うはもつともなこと。」と言つて寒い夜風に吹かれて許しを待ちます。身分が高いからといって驕らず、自ら規則を守ろうとする姿に気高さを感じます。不正を犯した企業の中に、この門番のように上司に意見できる人はいなかったのでしょうか。供人のような人ばかりだったということでしょうか。春日局のように自ら法令を遵守しようという社長はいなかったのでしょうか。

この文章は戦前、小学三年生が「修身」の時間に学習していたものです。戦前の子供たちはこのような文章から世の中のきまり、善悪、人としての生き方・考え方などを学び、実践していたようです。私たちにも見習わなければならないことがたくさんあるようです。

『命と人権を考える月間』 取組報告（まとめ）

12月18日（金）人権特別講演会を開催しました。講師は具志アンデルソン飛雄馬さんで、「外国人とともに暮らす社会ー多文化理解・共生の心を育むかけはしー」という演題でお話をうかがいました。日本の小学校に転校してきて「外国人」という理由で受けたいじめ、非行に走り暴走族の総長として暴れ回ったこと、刑務所での出会い、父親の死…まさに波瀾万丈の青春時代、何度も涙が出ました。約80分の講演時間でしたが、長さをを少しも感じさせない充実した時間でした。生徒たちにとっても、心に残る感動的な講演会となりました。講演会後の〇〇 〇さんの「お礼の言葉」と生徒感想文を紹介します。

◎お礼の言葉 生徒代表 〇〇 〇

本日は講演をしてくださり、ありがとうございました。今日のお話を聞いて、充実した学校生活を送れるということはすごく幸せなことなんだと、今改めて思いました。国籍が違うから、育った環境が違うからという理由で、学校だけでなく社会全体から「いじめや差別」にあったことに疑問を感じました。自分と少し違うというだけで、いじめや差別をする人はおかしいと思います。

また、いじめや差別は、人の人生で消えない傷となってしまうことが分かり、恐怖を感じました。これから自分の周りでいじめや偏見が起きてしまったら、小さいことでもいいのでいじめられている人の力になれるよう努力したいです。

外国人だからといって差別をしたり、いじめたりしないで互いの文化を尊重し助け合える環境をつくっていきたいと思います。私たちは11月に、いじめについて話し合う「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」を行いました。そこで考えたことや今日の講演で感じたことを大切にして、これからの学校生活を過ごしていきたいです。

- ・講演を聴いて、いじめは人の人生を大きく変えてしまうからとても恐ろしいということや自分で望んで本気になれば何度でも人生を更正できるということを学びました。とくに印象に残った言葉は「苦勞と挫折があるから幸せの意味が分かるんだ。」です。これから大変なことがあっても、それをがんばって乗り越えて、本当の幸せを見つけたいと思いました。具志さんがブラジル人だからという理由で、偏見をもったり、いじめをしたりする人たちの考えは絶対に間違っていると思います。私は一人一人の人生を大切にできる人になりたいです。（1年生）
 - ・僕は具志さんのお話を聞いてとても感動してしまいました。日系のブラジル人で、言語や食の文化が違うからという理由で、小中高とイジメられていて、そこから悪い道へ走ってしまい、悲しいこともあったにもかかわらず、2人の子供を育て、自分の力でやり直したからです。僕は小学生の頃にイジメをしてしまったことがあります。それをずっと後悔しています。ですが、小学校の頃にもどり、イジメをしていた自分をとめることはできません。今回、具志さんから教わった「過去は変えることはできないが、未来を変えることはできる」という言葉から、イジメをしてしまった子に謝ろうと思いました。まだまだ書きたいことはたくさんありますが、具志さん、改めて本当にありがとうございました。（2年生）
 - ・朝礼の時に、校長先生から具志さんについての紹介がありました。非行や暴力などの単語が出てきて、ドラマや映画などに出てくるような人生だなと思いました。具志さんのお話を聞いて、ドラマや映画のような人生を本当に送っていたので驚きました。1時間があっという間に過ぎました。私は具志さんのお話を聞き、違う国の人でも同じ世界の人なのだから、助け合い、同じように生きていかななくてはならないと思いました。もし外国から言葉も分からずに日本に来た人がいたら、見捨てずに、必ず助けてあげようと思いました。この世界から差別やいじめを受けている人がいなくなる日が早く来てほしいです。（3年生）
- ※ 一人一人の感想文に目を通しました。人権について深く考えている文章がたくさんあり、うれしくなりました。これからも人権についての学習を深めていきます。